

令和 7 年度 第 9 回庄内地区「子どもの声を聞く会」 発表者

学 校 名	氏 名	題 名
庄内小学校 6 年	松崎 璃來	将来の夢を実現させるために
菓子野小学校 6 年	山角 琴葉	薬剤師になるためにできること
乙房小学校 6 年	佐土平 朝陽	コミュニケーションをとるとき気を付けること
庄内中学校 2 年	真島 ひなせ 稲留 百音 楠元 亜虹 護摩所 巧 外山 芽依	庄内の未来設計～ワクワクする未来～

将来の夢を実現させるために 庄内小学校 6 年松崎 璃來

私の将来の夢は愛玩動物看護師になることです。

「愛玩動物看設師」聞き慣れない言葉かもしれません。

愛玩動物看護師とは、動物の健康管理や治療をサポートする専門職で、ペットを含む小動物に特化した看護のスペシャリストです。動物病院で、獣医師のサポートや治療の補助、検査や入院している動物のケアをするのが主な仕事です。

私たちが住む庄内地区ではよく野良猫を見かけます。その野良猫が自動車に轢かれているのを見るたびに心が痛みました。そんな時、早目に保護してあげられたら、このような可哀想な動物が減るのではないかと考えたことがきっかけで動物に関わる仕事に興味をもち、愛玩動物看護師になりたいと強く思うようになりました。

そこで、私は、この夢を実現させるために、今、何をしたらよいのかを考えてみました。

1 つ目は、愛玩動物看護師について詳しく調べて知識を深めていくことです。まず、実際に愛玩動物看護師の方に話を聞いたり、図書館やインターネットを使って調べたりすることで知識を深めていきたいです。そして、大学の「動物看護学部・学科」や「獣医保健看護学科」に進み、基礎動物学や動物看護学、愛護・適正飼養学などを学び国家資格を取ること。進むべき道を現実的に考え、それを実行していくことが大事だと思います。

2 つ目は、毎日の学校での勉強を頑張ることです。今、小学校で学んでいることは、これから進学する中学校へつながり、すべての夢の土台になります。中学校、さらには高校で基礎を固めることは夢を叶える近道になると思います。

3 つ目は、多様化する社会に適應するために、一つのことだけを極めるのではなく、いろいろ

なことに挑戦して、幅広い力や対応力を身に付けることです。

私は八歳から剣道をやっています。大変なことも多く、やめたいと思ったことは一度や二度ではありません。でも、これまでやめずに続けてこられたのは、心も体も鍛えることができる剣道が好きだからです。大変だった経験も含めて、きっとこれからの自分の力になる。そして、自分の夢の実現を後押ししてくれると信じています。

私は、小学校最後の運動会で副団長を務めました。団長を支えながら声かけをし、まとめていることは想像以上に大変なことでした。この重い責任のある役に挑戦したことが、自分にとっていい経験になり、胸を張ってみんなの前に立って声を出すことが楽しいと思えるようになり、自信にもつながりました。これは、将来においてきっと生かされると思っています。

夢を実現させるためには、これからたくさんの困難もあると思いますが、今、自分にできることを積み重ね、一步一步、夢に向かって進んでいきたいです。

薬剤師になるためにできること

菓子野小学校 6 年山角 琴葉

私の将来の夢は薬剤師です。薬剤師になろうと思ったのは、家族が花粉症の時に病院に行って薬をもらい、その薬で症状が良くなったことや、わたしが風邪を引いた時に、薬局で正確に薬を出してもらい、無事に風邪が治ったことがきっかけです。たくさんの数の薬の名前や効能、かんじゃさんの病気の症状に合わせた薬を正確に出す姿がすごいと思いました。

今日は、私が思う薬剤師になるためにできることや考えていくことを2つ話します。

まず、大学に行かなければなりません。6 年制の薬学部や薬科大学に入学して学び、修了後に薬剤師国家試験に合格することが必要です。二つの試験は、合格するのが大変難しいことなので、どの教科もしっかり勉強していきます。特に、私は理科と算数の力をつけるために集中して授業を受けたいです。なぜ、理科と算数かというと薬の分量の計算をしたり、体の中で薬がどう動くかを想像したりすることが必要だと思うからです。だから、これまで習ったことをもとにした予想や科学的な想像をたくさんしていきたいです。問題を解き終わったあとには見直しを何回もするなどして、間違いがないようにしていきたいです。そして分からないときには、先生にねばり強く質問したり、自分でも納得するまで調べたりしたいです。また、記憶力もよくしていきたいです。インターネットで調べたところ病院から出されている薬の種類は、数万種類あるそうです。薬剤師は、薬の名前を覚えないといけないので、薬に関する本を読んでノートにまとめたいです。患者さんの状態に合わせてお医者さんが薬を出すため、薬局には数千種類の薬があるそうです。数千種類の薬の名前などを覚えることは気の遠くなることですが、病気の治った人の姿を思いながらしっかりと覚えていきたいと思っています。

次に必要なことはコミュニケーション力だと考えます。病気になった患者さんに合う薬を出す

のはお医者さんです。しかし薬剤師は、患者さんに薬を渡すときにお話をしたり、聞いたりしなくてはなりません。私は患者さんの話をよく聞いて薬の説明をしたいので、今の体の調子や薬を飲むとこういう風によくなりますということを丁寧に聞いたり話したりしたいです。また、最近「オーバードーズ」という言葉を聞くようになりました。若い人を中心に病院で出される薬やアレルギーの薬などを買って一度に大量に使うことが増えているそうです。これはいやなことを忘れるためや安心できる場所がないという孤独でつらい気持ちをまぎらわせるためにオーバードーズをする人が増えているそうです。私はこのことを知って、正しく薬をのんでもらえるようにその人の気持ちによりそい、薬のいい所や正しく使えることを話せる薬剤師になりたいです。

私は正確に薬を出すだけではなく、患者さんの不安を取り除ける薬剤師が、とてもかっこいいなと思います。中学生になったら勉強はもちろんです、コミュニケーションを高めるための具体的な挑戦をしていきたいです。例えば、周りの友達が何かに悩み、つらい思いをしている時に、まずは友達の話にじっくりと耳をかたむけ、心に寄りそえるような存在になりたいと思います。日頃から身近な人の力になろうと努めることが、将来、患者さんに安心を届けられる薬剤師への第一歩になると信じています。夢をかなえるために、一日一日を大切にすごしていきたいです。

コミュニケーションをとるとき気を付けること

乙房小学校 6 年佐土平 朝陽

ぼくが人とコミュニケーションをとる場面で意識していることは、相手に自分の考えをしっかりと伝えること、そして、相手の意見を最後まで聞くことです。

子どもでも大人でも、自分の意見を聞いてもらえると安心できます。反対に、話を聞いてもらえなかったり、途中で否定されたりすると、悲しい気持ちになります。

以前、学校のクラスで話し合いをしたときに自分の考えを伝えたことがありました。しかし、「それは違うから」と否定されてしまいました。ぼくはとても落ち込み、「どうせ言っても聞いて貰えない」「まちがえたらどうしよう」と、自分の意見を言うことが怖くなりました。

しかし、先日、別の話し合いがあったとき、言いたいことがあるのにこのまま何も言わずに終わってしまうのはよくないと思い、勇気を出して自分の考えを伝えました。すると、クラスメイトや先生は、ぼくの話最後までしっかり聞いてくれました。すぐに賛成されたわけではありませんでしたが、ぼくは自分の意見を大切にしてもらえたと感じ、とても安心しました。そして、自分の考えに少し自信をもつことができました。

この経験を通して、人は自分の考えを聞いてもらうことで安心でき、自信をもてるようになることが分かりました。だから、ぼくも人の話をしっかりと聞くことを大切にしたいと思います。また、相手の意見を聞くことで、自分とは違う考え方に気づき、よりよい答えを見つけることができます。

実際に、ぼくが習っているそろばんで、昇段できず悩んでいたとき、同じ教室の友だちが、姿勢を工夫すると良いよと教えてくれました。その話を聞いて試してみると、スピードが上がり、昇段することができました。

これらの経験から、自分の意見を言うことだけでなく、相手の意見を最後までしっかり聞くこともとても大切だと気付きました。相手の話を聞くことは、相手を思いやることにつながり、自分自身の成長にもつながると思います。

これからは、自分の意見を伝えるだけでなく、友だちや周りの人の意見にも耳をかたむけていきたいです。そして、相手を思いやり、だれもが安心して意見を言えるクラスを、今の学級や進学する中学校でも、みんなといっしょに作っていきたいと思います。

庄内の未来設計～ワクワクする未来～

庄内中学校 2年 真島 ひなせ

稲留 百音

楠元 亜虹

護摩所 巧

外山 芽依

面白いをずっと、素晴らしいをずっと

私たちは修学旅行で大阪・関西万博を訪れました。そこには、必ず各国の方がいてくださいました。英語はうまく話せなかったけれど、笑顔や身ぶり手ぶりで交流し、その国の文化や空気を全身で感じることができました。

そこで私たちが感じたのは、「14歳の私たちでも、世界とつながれる」という幸福感とワクワクでした。この体験をきっかけに、私たちは自分たちの住む庄内地区について考えました。

話し合いの中で出てきた課題は大きく2つあります。1つ目・交流する場が少ないこと。2つ目・人が少ないこと。このままでは、地域のつながりが少しずつ薄れてしまうのではないかと感じました。

そこで私たちの中に浮かび上がってきた言葉があります。それは、「つなぐ」という言葉です。私たちができる庄内地区への恩返し。それは、中学生である私たちが、地域をつなぐ存在になることです。私たちは2つの提案を考えました。

まず 1 つ目は、中学生が「小さな先生」になれないだろうかという提案です。

私たちの地区には、3 つの小学校があります。そこで私たち中学生が主体となり、小学校高学年の後輩たちに庄内中学校へ来てもらいます。

まず、アンケートを行います。小学生には「あなたの好きなことは何ですか？」

中学生にも「あなたの好きなことは何ですか？」

勉強が得意な人、野球や走ることが得意な人、絵や手芸が好きな人。みんなそれぞれ「好き」や「得意」を持っています。それを活かし、分野ごとに活動します。

さらに、私たちの地域には元学校の先生や理科の実験の大先生、三味線や百人一首、野球、大工さんなど、現役を退かれた“地域の大先生”がたくさんいらっしゃいます。

私たちはそんな大先生と一緒に、「小さな先生」として活動します。

この活動を通して、小学生には

「中学生ってかっこいい」

「早く庄内中学校に行きたい」

そんなあこがれをもってもらいたいです。

中学生である私たちは、自分の「好き」や「得意」に自信を持ち、私たち（庄内中学校）のテーマである「自分の花を咲かせよう」を実現します。

次に 2 つ目は、中学生プロデュースによる「ポップアップストア」を開催するという提案です。

課題として挙げられた、人と人が交流する場が少ない。そんな現状を、私たちが思い描いた、庄内の未来へつなぐために、ポップアップストアを開催します。そうすることで、庄内地区はたくさんの人の笑顔であふれ、ワクワクする未来につながると、私たちは信じています。

そして地域の方々から、これまで培ってこられた経験や誇りを、私たちがしっかり受け取れる機会にできないかと考えています。

私たちは、幼い頃から地域の方々に支えられ、見守られて成長してきました。今度は私たちが、その想いを次の世代へつないでいきたい。私たち中学生が主体となって人と人を「つなぐこと」で、庄内地区はきっと、もっとワクワクする未来につながると、私たちは信じています。